

パブリックコメントにおける意見の結果及び

意見に対する町の考え方について

令和6年1月24日から令和6年2月7日までの間、パブリックコメントを実施し、以下のご意見をいただきました。

これらのご意見について要約・集約して整理し、それらに対する町の考え方及び計画への反映方針等を別紙のとおりご報告いたします。

○意見結果について

実 施 期 間	令和6年1月24日（水）から令和6年2月7日（水）
意見・回答書提出者数	1名
意 見 項 目 数	第1章 0件 第2章 1件 第3章 0件 第4章 0件 第5章 0件 第6章 0件 その他 2件

パブリックコメントにおける意見一覧と町の考え方

No	該当ページ	いただいた意見	町の考え方	計画書への反映方針
1	P8～10	(2) 高齢者人口の推移と(5) 将来推計人口を見比べると、令和5年度の高齢者人口3,653人に対し、推計値の令和6年度の高齢者人口が4,094人と約440人も増えていることになります。(2) 高齢者人口の推移から(5) 将来推計人口の数値へ増大する根拠は何になるのでしょうか？ 明確な根拠があれば明示が必要かと思います。もし根拠がないならば、無理に倶知安町人口ビジョンの数値から推計する必要はないし、むしろ計画や施策の策定において誤解を生む内容だと思います。 それよりも(4) 世帯数の推移にある、高齢者世帯に占める1人暮らしの世帯数の増加傾向に着目し、普段の生活が周りの方から目につきにくい高齢者が取り残されないような仕組みづくりが必要かと思います。	(2) 高齢者人口の推移については「住民基本台帳」をもとに、(5) 将来推計人口については「倶知安町人口ビジョン」をもとに整理をしております。 ご指摘いただいたとおり数値に乖離は生じておりますが、将来人口の推計を行うにあたっては、本町が今後目指すべき将来の方向と展望を示す「人口ビジョン」を基に推計しております。人口ビジョンに改定があった際は改めて本計画の将来推計人口についても再度検討を予定しております。 また、高齢者世帯に占める1人暮らしの世帯数が増加傾向にあるということは本町としても認識しております。 引き続き、1人暮らしの高齢者が安心して住み続けられるためのサービスの提供、また地域から孤立させることのないよう地域全体で支え合うまちづくりに向けた取組を推進していきます。	変更なし

No	該当ページ	いただいた意見	町の考え方	計画書への反映方針
2	P67	(4) 食べることについて 「⑤どなたかと食事をともにする機会がありますか」選択肢1〔毎日ある〕859件(52.6%)に対し、選択肢2～5の合計732件(44.8%)と普段から孤食をしている高齢者が多い点も注意すべき問題かと思えます。 コロナ禍での自粛生活の影響が続いていると想像しますが、新たに大きな設備投資等をしなくても、既存の自治会等団体が各地の集会所で定期的に食事会を開催し、参加者が集まれば解消できると思えます。 食事会だけでなく、同時に医師や保健師による巡回診察や健康体操等と組み合わせることで参加を促す仕組みがあればよいと思えます。 医食同源の言葉とおり、食生活環境の充実健康に欠かせません。	本町においても食生活環境の充実健康に欠かせないものと認識しております。 コロナ禍では、地域サロン活動や長寿会などで行っていた「会食を伴う活動」の実施が難しい状況でありましたが、令和5年度については、一般介護予防事業として生活支援コーディネーターを中心とした「男の料理教室」や「いただきますの会」などで軽食の提供、栄養士や保健師・専門職の講話や介護予防体操等を実施する事業を開催しております。 また、地域の長寿会やサロン活動へ栄養士・保健師・歯科衛生士等が訪問し、「栄養に関する講話」や「口腔ケアなどに関する講話」なども実施しております。 一人暮らしの高齢者が増えるなか「孤食」が増えることも考えられますが、各事業のなかで共食することにより、五感を伴う刺激もあり介護予防につながると考えられるため、今後も参加者の方が食事をする機会と介護予防に関する講話や体操などの活動についての支援を継続していきます。	変更なし

No	該当ページ	いただいた意見	町の考え方	計画書への反映方針
3	P70	(6) 地域での生活について ③見守りは誰にしてほしいですか(複数回答) 選択肢1～3は対象が個人で合計 1,666 件(※69.1%)、選択肢4～8は対象が組織・専門職で合計 559 件(※23.2%)となっています。 ※回答件数 2,412 件(無回答除く) ④見守りはどのような方法で希望しますか(複数回答) 選択肢2～5は手段が非対面で合計 1,221 件(※56.5%)、選択肢1,6～8は手段が対面で合計 830 件(※38.4%)となっています。※回答件数 2,162 件(無回答除く) 上記の③,④から、見守りに関して対象は「個人」で手段は「非対面」を希望している高齢者が多いことがわかります。 これもコロナ禍での自粛生活の影響が続いていると想像しますが、その一方で高齢者のスマートフォン所有率や利用機会は上昇を続けています。 さらに労働人口減少による人手不足はどの職種においても顕著であり、新たな人員確保を求めることより、ICT を活用した仕組みで人員不足をカバーすることを優先しなくては対処しきれないことは明白です。 すべての高齢者対象ではなく、まずは ICT 端	新型コロナウイルスの影響や携帯電話等の普及により高齢者にも ICT 機器がより身近なものとなっていることは本町としても認識しております。 一方、機器の操作等が苦手な高齢者も一定以上いることから本町としては対面による生活支援の充実も重要と考えております。 ただし、ご指摘のとおり、人材という観点で高齢者支援に携わる人材が特に不足している現状は本町としても重要な課題と認識しているところであり、その解決の手立ての1つとして ICT 機器活用の充実ということも視野に入れながら、今後も高齢者の方へのサービスが不足することがないように、事業の見直しや取り組みを実施していきたいと考えております。 なお調査の集計結果について、複数回答がある項目については合計欄を削除いたします。	P62 以降の資料編 複数回答の項目については「合計欄」を削除

No .	該当ページ	いただいた意見	町の考え方	計画書への反映方針
		未を所有しており、利用できる高齢者向けとしてコミュニケーションネットワークを構築し、省人化を進める発想転換が求められていると思います。こちらも LINE 等の普及している SNS を利用すれば十分に構築可能かと思います。 ※（複数回答）の集計で合計件数が回答者数になっているのに違和感があります。注記表記にして実際の回答件数の合計値を表記するのがよいかと思います。		